

ビギナーズストック

初級編

<http://www.beginnersstock.jp>

相場環境に左右されることなく、  
収益を上げる方法をお伝えします。

1 版



## はじめに

インターネットの普及により、株式投資を行う個人投資家が急増しています。一方で、継続して成功している人は、全体の5%にも満たないといわれています。

では、なぜ個人投資家の95%以上が失敗してしまうのでしょうか。

銘柄選びが悪いのでしょうか、売買のタイミングが悪いのでしょうか。それとも別の理由があるのでしょうか。

購入した後で上昇するか、下降するかの確率は50%です。

次の購入で、2回目の勝率は4分の1(25%)、3回目の勝率は8分の1(12.5%)、4回目の勝率は16分の1(6.25%)となります。このあとの勝率はさらに低くなり、0%に近づいていきます。このことから、何かしら方針を持たないまま、単純に売買を繰り返すだけでは、やればやるほど負けてしまうことがわかります。

安く買って高く売ればいいという原則は理解していても、私たちはなぜ負け続けてしまうのでしょうか。なにか上手いやり方は存在していないのでしょうか。

本冊子では、ビギナーズストックを使って、利益を出す方法として、株をはじめてまもない初級者を対象として、どのようなやり方を身に付ければいいのか、説明をしています。

注)ビギナーズストックは、ブロードバンドジャパン株式会社の登録商標です。

株売買の練習ソフトウェアは、特許出願中です。

注)本冊子の著作権はブロードバンドジャパン株式会社にあります。

ブロードバンドジャパン株式会社の書面による事前許可なく、本冊子の一部または全部を、印刷物・電子ファイル・ビデオ・テープレコーダーホームページ等のあらゆるデータ蓄積手段により複製・流用・転載、翻訳・転売(オークションを含む)等を行うことを禁止致します。

## 株の売買が上手になるには

そもそも、株価の予測は、できるのでしょうか。

経済アナリストが年末の日経の予想をしているように、予想は誰でもできますが、株価の予測を正しく行うことは、まずできないと言われていています。では、100%とは言わないまでも、80%とか、70%あたる予測はできないものなのでしょうか。

そもそも、何も考えないまま対応すれば、50%しかあたらないと申しあげました。ずっと勝ち続けることができる割合は、たった4回の売買で6%にまで下がります。これでは続ければ続けるほど、負けてしまうことは自明です。

仮に何かしらあたる方法が見つかったとします。この方法に従うと、あてずっぽうにやるよりも2割も確率が高いとします。つまり7割の確率で勝てるやり方です。なにも考えないでやる方法は2回に1回しか当たらないのに対して、この方法では3回のうち2回は当たるので、勝率からはよさそうに見えます。

つぎに方法に従ったときに得られる利益を考えて見ることにします。

この方法では、1回あたり+5%（100万円が105万円になる）とします。2回目も+5%になります。ここまでに+10%利益となりました。問題は3回目の負けたときの金額がどうなるかです。損失の額が、10%以内であれば、このやり方をこつこつと回数を繰り返せば、利益は少しずつ膨らんでくるのが分かります。もし、10%以上であれば、反対に売買を繰り返すほど、お金は減ってしまうことになります。

ここまでで、次のことが分かると思います。

①自分なりのやり方に従って対応する必要がある（あてずっぽうというやり方は確実に負けるとお伝えしました）②できるだけ勝率を上げること（これも当たり前ですが、勝率は高いほうがいい）③勝ったときの利益の総額は、負けた時の損失額よりも大きいこと（反対に、負けたときの損失は、勝ったときの利益よりも小さいこと）この前提がなければ、そのやり方は正しいやり方ではありません。

しかし良く考えてみると、そもそもある方法を選んで実行したときには、②や③はすでに決まっているものです。株投資で利益を出す難しさはまさにこの点にあります。自分のやり方①が、ファンダメンタル投資、チャート投資、その

ほかなんでもいいのですが、ある方針で対応しなければまず勝てないはずであり、でもなにか方針を持って対応しても、それでも負けてしまう。それほど株投資は簡単そうに見えても、利益を出そうとすると、とても難しいことを知らされます。つまるところ「勝てる法」を教えてくださいなというところにつきてしまいます。

この本を手にした方の多くは、ここまでやればやるほど投資額が少なくなって、なんとか勝てる方法はないものかと必死になって探しておられるような気がいたします。そもそも、なにかしらコンスタントに勝てるやり方を身に付けることができなければ、株式投資は一切やるべきでないことが分かります。

株の勝率は1度の宝くじに当たるよりはるかに大きいかもしれませんが、勝ち続ける正しいやり方を身につけなければ大事な資産はあっという間になくなってしまいます。なんとか、勝てる方法を身につけてこそ、少しずつでも利益を手にすることができるのだと思います。

## 株の基礎知識

初めての方を対象として、株について少し知識を覚えましょう。ローソク足と株の変動についてです。

### 1日の株価の動き

1日の株価の動きは、ローソク足というイメージで表されます。皆さんが良く目にしている棒線のことです。

取引所は朝9時に始まり、午後3時に終わります。

9時に始まったときの株価を「始値」と言い、午後3時に終わったときの株価を「終値」といいます。1日のうちで最も株価が高い価格を「高値」といい、逆に最も安い価格は「安値」と呼びます。

「始値」 < 「終値」であれば、陽線（白）で表します。

「始値」 > 「終値」であれば、陰線（黒）で表します。



イメージの上下に現れる直線を「ヒゲ」と呼びます。

それぞれ「上ヒゲ」「下ヒゲ」と言い、それぞれその日の高値、安値を表します。

朝9時の始値と、午後3時の終値が同じ金額の場合は、陽線にも陰線にもなりません。これをコマ（十字架）と呼びます。



このコマは、株価の天井や底で現れることが多いです。

株価は毎日このローソク足で表現されて、日々その株価の状態をあらわしています。

## 株の波動について

株は、上げたり下げたりしながら、やがて上がっていきます。また上げたり下げたりしながら、下がります。数日の小さな上げと下げが、中波の上下の波を形作ります。そして、何ヶ月、何年もかけて、大きな波を形成してゆくことがわかります。



2003年～2011年の月足（新日鉄5401）

今の波はどういった状態にあるのか、また、選択した株が現在どのような流れに位置しているのかを把握することは、大切です。

しかしながら、株をはじめたばかりの方で、このトレンド（方向性）を捉えることができる方は、極々少数であると思います。あるいは中級者となっても、今は下がっているのか、あがっているのか見誤ってしまうことから、試し玉（最小玉数）で相場に小さく入って方向感覚を掴まえるという方もいらっしゃると思います。

では、このような波の方向性（トレンド）を捉えることはできないものなのでしょうか。方向性（トレンド）を誤らなければ、少くくらい反対方向に株価が推移したとしても安心して見ていられるはずです。

### 方向性（トレンド）を知るには

そもそも、わたしたち投資家の最大の問題は、この株価の動きである小波、中波に惑わされてしまって、いまの状態を見誤ることにありました。

この課題をなんとか解消できないだろうかと、これまで何十年もの間、考えてきました。世の中にあるさまざまな指標線で検証してきましたが、満足のいく指標を見つけることはできませんでした。

長いあいだ、方向性（トレンド）を上手く捉えることができずにいましたが、ある日、このトレンドを捉えるための閃きがありました。その閃きをもとに作ったのが、ビギナーズストックの独自指標線（赤線）です。この赤線の方向を見るだけで、上がっているのか、下がっているのかが分かります。

この線を移動平均線ではないのかとおっしゃる方もいらっしゃいますが、移動平均線ではありません。移動平均線は、遅行線といわれるように、過去の株価からその値を計算されるため、5日、25日、75日と日数が増えるに従って、いまの株価から大きくうしろにずれた位置に現れてしまいます。これは大きな弱点であり、過去の状態を正しく表現できることは、良いことですが、実践において移動平均線を利用することはできません。

世の中のチャートには日付を変えたこの線が数本描かれています。皆さんを迷わせる原因はここにあるとさえ思っています。なにも疑問を持つことなくチャートに移動平均線がひかれているのは、いまとなっては不思議でなりません。

そもそも私たちが欲しているのは、これからの未来の株価の状態を推定するために、①できる限り今のいまの状態をあらわせること、②さらに欲を言うと、

その流れ（線のカーブなど）から、これから上がるのか、下がるのかの方向性をつかまえたいという2点です。独自予測線（赤）は、過去数ヶ月さかのぼって、統計的な計算をしています。

もっとイメージによる表現では、

『逆説的な言い方で恐縮ですが、株価はこの線に近づいて来ます。株価があつての指標線のはずなのですが、今の株価が、この線より離れていけばいいほど、いずれこの線に戻ってくるように設計上工夫されています。かなりの程度で、株価はいずれこの線に戻ってきます。』

このことをだいたいで分かるようになると、これからお伝えする話もなるほどと理解頂けると思います。そのためには、ビギナーズストックで実際の売買練習を過去10年くらい通してやってみると、はっきりとすっきりと分かるようになります。

ただし赤線の留意点は1点だけあります。1ヶ月ほど前の確信度は100%（それ以前も100%）です。ここから一日繰り上がるごとに、確信度は少しずつ小さくなっていきます、営業日当日では50%の確信度として表されます。

## 買いから入る（買いが得意な方）

株投資をはじめた頃、ほとんどの個人投資家は、現物株を購入すると思います。株を安いところで買って、上がったら売って利益を出すという方針ではないでしょうか。

ここで、みなさんに、1つだけ確認したいことがあります。

みなさんの購入するタイミングを教えてくださいませんか。購入するタイミングを明確な方針としてお持ちでしょうかということです。

すべて株は上がりもしますし、下がりもします。この上がるような場面（タイミング）を捉えて購入されたほうが、何も考えずに購入されるよりもはるかに利益を生み出す機会に恵まれる（勝率を上げるため）のではないのでしょうか。

そろそろかなと思って買ってみたら、意に反してまた下げたということにならないためには、購入のタイミングはとても重要です。



私たちが推奨する購入銘柄とタイミングを、一言でお伝えするならば、

『赤が右上がりにある銘柄を買きましょう。』

これだけです。さらにもう少し言葉を添えるならば、

『赤が右上がりの銘柄で、株価が赤より下にあるタイミングで買きましょう。』

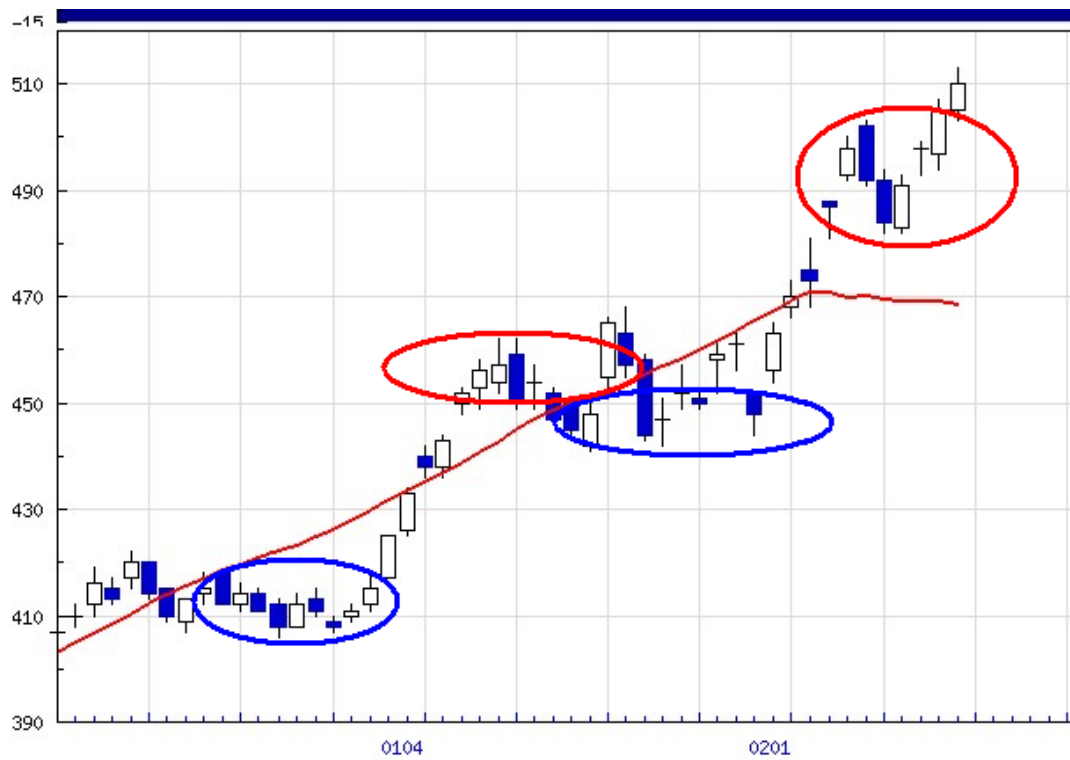
具体的にお見せしたほうが分かりやすいと思われます。日立製作所6501の2010年12月～2011年2月末までの株価です。たとえば、青丸の付近で購入されるといいですね。

最初の青丸は、410円付近で購入できそうです。41万円（単位数千株）で購入できます。2回目は460円付近でも購入してみてもいいでしょう。購入金額は46万円です。

次に、売るタイミングです。売る場面は、株価が赤線を上回ったときです。

450円付近が最初の売り場です。次の売り場は500円付近です。

こまめに赤と株価の関係を見ていけば、45万円－41万円＝4万円、50万円－46万円＝4万円で、合計8万円の利益となります。もともとの投資額が87万円であり、利益が8万円ですから、10%近いリターンで十分です。



日足+予測線：日立製作所6501の2010年12月～2011年2月末

次に、もし赤線がなくなったらどうでしょうか？皆さんは、どこで買いますか？同じローソク足ですが、どう振る舞うかを想像してください。

方向性（トレンド）を表す線はなくなりました。

指標線がなくなると、途端にどこで買い場がわからなくなってしまったと思います。1月半ばの横這い付近で買いますか。でもここでも大きな陰線がありますので、そのまま下げてしまったかもしれません。



日足：日立製作所6501の2010年12月～2011年2月末

ここで買えるのだという確信を持たなくなったと思われませんか。

この図を見て上昇したという事実は伝わってきます。12月の終りに買えたら良かったなと思うくらいでしょうか。なんとも心もとない売買をしています。

また売り場も分からなくなったと思いませんか。仮に一段上げた1月初旬の450円で思い切って買って見たとします。45万円の投資です。1月の半分10日ほどは上げるのか下げるのかわかりません。途中の横ばい、陰線が続く付近で、がつんと下がるかもという恐怖を持ってしまうと、もうそこで売ってしまったかもしれません。

この場合だと、手数料を差し引いて、おそらく1万円ほどの負けで終わってしまいます。でも44万円だからあまり負けなくてよかったと思うのか、あるいはそのあと2月の上昇を見て、もう少し持っていたらなあと後悔するかと思うのは、これまでのやり方ではなかったでしょうか。

## 売りについて（前置き）

株は上がることを期待して現物株を購入するだけではありません。信用枠を使って、売りから入ることができます。売りができるのは、信用枠の制度があるからです。証券会社に預けた3倍の金額まで売買をできる優れた制度を活用しない手はありません。30万円を証券会社に預けておけば、100万程度信用枠での売買を行うことができます。

売りから入るって、持ってないものを売るのはなんだか気持ち悪いなと思われた方に簡単に信用枠について説明します。あなたは証券会社にお金を預けることで証券会社に信用され、あなた専用信用枠を開設してもらえました。売りから入るとは、証券会社にある株を、この信用によって売らせてもらえるのです。しばらくして無事下がってきたところで、あなたの指示で証券会社に買い戻させることができます。あなたが行ったことは、現物買いでやったことの反対そのまま、順序を逆にして証券会社に売りと買いの指示をだしたというだけです。

私たちは生まれてこのかた、お金を払って買うという行為を自然に身につけています。ないものを売るというのがどうも自然でないと思う方もいらっしゃるようですが、証券会社内に保管されているものを、まずは売ってみて、そのうち買い戻すというだけのことです。証券会社に信用された金額内だけ売ってもいいということですね。

少し話を転じて証券会社は、一般的に売りを推奨することはないのでしょうか。あまり聞いたことがありませんね。証券会社の営業方針は、投資信託ばかり、すべて今が買い時ですという話題を提供しつつ、買って頂くことにあります。

なぜ証券会社はいつも買いの情報しか流さないのでしょうか。よく考えてみると、ある銘柄の株を売るということは、ある意味ではその会社を否定することで日本の金融を支える証券業界が、会社を否定することはあってはならぬという暗黙の了解があるのだと思います。

しかしながら、証券会社の自己裁定部門では売りから入ることは日々行われています。個人投資家が現物買いをやっている最中、自己裁定部門が売りをやっていたとしたら、負け戦を演出されているという感じがしますが、どう思われますか。

私たち個人投資家も売りから入るスキルを身につけていいのではないのでしょうか。

## 売りから入ること

売りから入るといふことで、少し前置きが長くなりましたが、赤線を使った売りのタイミングをお伝えしたいと思います。  
買いのまったく逆の表現となります。

『赤が右下がりにある銘柄を売りましょう。』

さらにもう少し言葉を添えるならば、

『赤が右下がりの銘柄で、株価が赤より上にあるタイミングで売りましょう。』

具体的にお見せします。こちらは新日鉄5401の2010年8月～2010年10月末までの株価です。上記の方針に従うとすれば、たとえば赤丸の付近で売れるはずですが。



日足+予測線：新日鉄5401の2010年8月～2010年10月末

最初の売り場は、295円付近（赤丸）です。29.5万円（単位数千株）で売れました。2回目は285円付近でも売れそうです。合計で、58万円で売ったとします。

次に、買い戻すタイミングについてです。

買い戻す場面は、株価が赤線を下回ったときです。1ヶ月ちょっとで順調に下げてきました、265円付近が買い戻し場面となります。さらに少し待ってみて255円付近で買い戻したとしましょう。

こまめに赤と株価の関係を見ていれば、29.5万円－26.5万円＝3万円、28.5万円－25.5万円＝3万円で、合計6万円の利益となります。もとの投資額が58万円であり、利益が6万円ですから、10%近いリターンとなり、十分です。

もちろん、利益が数万円でも1万円でも出ていけば勝ち勝ちなので、とにかく下がったら買い戻すということで結構です。

いま一度、普通のローソク足をじっくりとご覧になってください。そして、どの場面でどう振る舞うか心に決めていただけますか。



日足：新日鉄5401の2010年8月～2010年10月末

いかがですか、トレンド（方向性）が、まったく分からなくなりました。

買いたい、売りたいという気持ちが交錯するなか、暗中模索しているときに、たまたま9月半ばに新日鉄の業績が良くなったとか、子会社を買収するとか、そうしたニュースが日経一面に見つけたとしたら、皆さんはどう思われますか。あるいは10月初旬にたまたま会社四季報を見てみたら来期の業績予想が良くなったと出ていました。そろそろ買ってみようかと思われるのではないのでしょうか。はたまた証券会社のレイティングが上がった、下がったとか、などなど。

下がる場面なのに、投資行動としておかしいではありませんか。なぜ買おうと思われたのでしょうか。もう十分下がったから、そろそろだからですか、良いニュースを目にしたからですか。このようななんとなく買ってみよう、なんとなく売ってみようでは、良くない感情の表れであると思います。こういったニュースはまったく当てにできないのだと割り切ることだと思えます。このようなニュースに左右される気持ちに距離を置いて欲しいと思います。

株で利益を出すには、売買を実行するタイミングが大切です。

タイミングこそ命であり、タイミングを間違わなければ、かりに予想から外れたとしても方向性（トレンド）にはかならず従うので、最後には勝てると思います。

その銘柄のトレンドが分からない状態で、今が買いと思ひ込み、単純に買う行動に走ることはたいへんに危険ですし、反対にトレンドを見極めた投資行動は、勝つ確率を高めてくれるものだと思います。

独自指標線（赤）は、ひとり取り残された森林の中の指標みたいなもので、こっちに行けば明るい場所に出られますよと、ひっそりと教えてくれる大切な道しるべのようなものと、お考え頂ければと思います。

## 鏡面表示で気持ちの確認を

株を始めた当初、買いから入るほうがすんなり行くという思うひとは多いのではないのでしょうか。その反対に売りから入るほうが得意と思うひとは少ないかもしれません。では、売りから入る気持ち、買いから入る気持ちをきちんと見えるようにするにはどうしたらいいのでしょうか？

買いたいという衝動、気持ちを持ったとき、鏡面表示（ミラーモード）機能を使って表示を反転してみてください。

次ページ以降、上記に示した日立製作所、新日鐵の同じ期間の鏡面表示図です。

独自予測線が一貫して下げているのでトレンドは下向きで表されます。鏡面表示にして、反対の気持ち（買いならば売り、売りならば買い）を持てるかを確認してください。

はっきりと反対の気持ちならなければ、今の方向感覚はまったく正反対であり、上手くいかない可能性があるということです。いま買いたいと思う気持ちを持ったかたは、鏡面表示で見たときに売りたいという気持ちになれば、最初に抱いた気持ちが正しいことになります。

鏡面表示ではローソク足を上下逆さまで見ることができるため、上げ下げの感覚も真逆になります。いまの自分の気持ちがまったく反対になるかは、最初のうちは、不思議に感じると思いますが、いまの気持ちが正しいかを判定する良い指針となるでしょう。





日立製作所 6501 の 2010 年 1 月 2 月 ~ 2011 年 2 月 末  
 上段：日足、下段：鏡面表示



新日鉄5401の2010年8月～2010年10月末

上段：日足、下段：鏡面表示

## 損切は必要なテクニック

株の売買が上手な方の実践テクニックに、損切りがあげられます。損切ラインをどの程度に置くかですが、人によっては5%で損切りをするという方もいらっしゃいます。

私どもで新日鉄過去10年で計算をしたところ、8-9%が損切ポイントでありました。10%だと、少し遅すぎるかなというところでした。損切りをしないで持ち続けたとすると、もっと損を大きくしてしまったということの意味します。ご自身の損切りラインを準備して、それを超えたら、必ずすぐに行ってください。

『損小利大』とは、損をできるだけ小さくして、利を大きく伸ばすという意味です。利を出そう出そうとするのではなくて、損を如何に小さくできるかということが大切であると説いたものだと言われます。

損切りとは、仮に負けたとしても投資金額の8%以内に損失を抑えることであり、利益のほうをそれ以上伸ばすことができれば、十分利益を出せると考えます。

上手な方は損切りラインを設定して、実行していることを覚えておいてください。また損切りができないと、売買は上手になれないと思います。ぜひとも損切を実行できるようにして頂きたいと思います。

## まとめ

いま世の中にある株に関する情報は、溢れかえり、そして複雑になりすぎたように感じています。たくさんの指標を確認して、ファンダメンタル分析をして、最後にチャート分析システムにかけてと、なんだかワケがわからなくなってしまいました。もはや私たちには、ついていけないレベルになってしまいました。

私たちは、株の売買が上手な集まりでありたいと思います。あの株を買ってみたんだのように、もっと株の売買を楽しみたい、シンプルに売り買いをして、利益を生み出す集まりでありたい、この発想がビギナーズストックのはじまりです。

すべての銘柄の株価は、上げていてもときに大きく売り込まれたり、下げている必要以上に買い上げられたりすることがあります。このタイミングを独自指標線で捉えることができます。そのタイミングで反対売買を行うことで、利益を生み出せるということにお気づき頂きたいと思います。

売りと買いは気持ちの上では真逆の心理状態にあります。買いの気持ちになったときに果たして本当にそれでいいのだろうか、ちょっと待てよ、売りではないかと反対の自分が冷静に判断することができれば、少しずつでも負ける回数が少なるなり（勝率が上がり）、そして、いずれ勝てる（利益を出せる）ようになると思います。

そのときに、ビギナーズストックの指標線や各種機能がお役に立ったとしたら、長い年月をかけてサービスを作り上げてきた意義が見出されます。皆さんに少しでもお役に立ったと言って頂けるように、これからも改善改良を繰り返していこうと思います。

心より皆さんの成功を願いつつ、ビギナーズストックの初級編を終りにしたいと思います。

ご質問、連絡先は、[support\\_mail@beginnersstock.jp](mailto:support_mail@beginnersstock.jp) です。

ビギナーズストック  
代表 水野裕識



